

2019年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2020年3月23日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛久 殿

代表者氏名 末 木 新

研究プロジェクトの名称 自殺企図動画に関する予備的観察研究：自殺直前の心理状況はどのようなものか？						
研究目的 2006年の自殺対策基本法の制定以降、自殺対策は社会における重要な課題だと見なされるようになってきている。自殺対策の根幹は、自殺の発生の予測（およびその予測に基づく予防）にあるが、自殺者が死の直前にどのような状態にあるのかは不明である。これは、これまでは死の直前の行動データの収集が困難だったからである。しかし、現在では、スマートフォンや動画サイトの普及、監視カメラの普及により、自殺直前の行動データの収集が可能となっている。そこで、本研究では、動画を中心とした自殺の直前行動のデータを収集・分析し、自殺の直前の人間が置かれた状況およびその行動の特性を明らかにする。						
プロジェクト所属メンバー（氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。）						
末木 新	教					

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。） 2019/06/21（金）データ収集（動画の検索など） 2019/07/19（金）データ収集・解析（動画の検索など） 2019/10/04（金）データ収集・解析（動画の検索など） 2019/10/18（金）データ収集・解析（動画の検索など） 2019/10/30（水）鉄道会社とのミーティング 2019/11/08（金）データ解析 2019/11/19（火）鉄道会社とのミーティング・現地視察（駅構内） 2019/12/26（木）鉄道駅視察・フィールドワーク 2020/01/09（木）論文初稿投稿 ※現在審査中 2020/01/10（金）データ収集・解析（動画の検索など） 2020/02/17（月）データ収集・解析（動画の検索など）
--

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

研究1 動画内容の分析

方法 動画サイト（例：youtube）等において、日本語、英語、スペイン語、中国語で自殺や自殺方法に関する用語の検索を行い、自殺企図動画のアップロード状況およびその内容に関するデータを収集した。用いた検索語は、自殺、飛び込み、電車、駅、およびこれらの語を英語、スペイン語、中国語に翻訳したものであった。検索は、研究活動の経過にあるように、断続的に実施した。

結果 120本の動画を閲覧した結果、重複した内容を除き34本の鉄道自殺動画を特定できた。地域はインドのものが最も多く（16本、47.1%）、ほとんどが地上線での駅における飛び込みの様子だった。飛び込みの結果、14本（41.2%）は死亡していると推定され、残りのものは救助されるか、致命的ではないものと推定された。分析の結果、救助されたケースでは、①ホーム上に人が多すぎない、②自殺企図者が企図直前に明らかに異常と思える行動をホーム上でしている（例：電車の方をホームの先端でしきりに確認する、携帯等の持ち物を床や壁に投げつける）、などの特徴が見られた。また、ほとんど全ての動画において確認された共通点は、ホーム上での自殺企図が発生した際、ホーム上の他の乗客は、目を背けながらホームの後方に下がっていくということであった。

研究2 自殺が発生しやすい鉄道駅の状況

方法 研究1に関する内容をまとめた途中経過資料をもとに、鉄道会社と飛び込み自殺の現状に関するミーティングを実施した。その結果、鉄道会社より提供された自殺の発生状況に関する資料を得て、その内容に関する統計的分析を実施した。得られたデータは、当該鉄道会社内の各駅における鉄道飛び込み自殺の発生状況（2014～2019年）および、自殺多発駅の駅構内における自殺発生場所の見取り図である。

結果 統計的分析の結果、鉄道飛び込み自殺の発生しやすい駅は、通過列車が通り、利用客数が多く、近隣に精神科病院があった。また、鉄道多発駅・多発箇所フィールドワークの結果、半数近くの自殺がベンチや待合室の近くで発生しており、その他、ホームの電車侵入側の端、ホームへの侵入口付近（例：階段の入り口）、運転手からの死角となる場所で自殺が生じていた。ここから、鉄道への飛び込み自殺で亡くなった者は、必ずしも衝動的に／死ぬことをかたく心に誓って起こるわけではなく、ベンチや待合室で電車を眺め、生と死の間で迷っていることが示唆された。鉄道飛び込み自殺への対策には、ホームドアの設置、青色照明の設置やパトロールの活用といった方法があるが、青色照明の設置やパトロールの実施については、上述の特徴に合致した部分から優先して実施することが望まれる。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2019年4月～2020年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

なし

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2020年4月30日（木） 提出先=企画室企画係(岡本) kikaku@wako.ac.jp(企画係)